

平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業 先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート

【基礎データ】					
フリガナ	ナシ				
クラブ名	習志野ベイサイドスポーツクラブ				
活動地域	千葉県 習志野市 第7中学校区				
市区町村の人口	24,000 名	クラブ設立年	平成13年	クラブ会員数	600 名
当該地域の小学校の数と児童数	3 校			1,340 名	
当該地域の中学校の数と生徒数	1 校			580 名	
主な活動スポーツ種目	硬式テニス・女子サッカー・ソフトバレーボール・剣道・等				
フリガナ	シムラ セイイチ		クラブでの役職名		
クラブ代表者名	嶋村 清一				会長

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	2001年（平成13年）
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況	<p>スポーツ少年団（野球・サッカー）は各小学校の学校開放を利用して、それぞれ活発に活動を行っているが、少女バレーボール・ミニバスケットなどは、各小学校単位では人数が集まりにくくなっており、統合・廃止の道を進みつつあった。中学校に関しては、指導者の転任・高齢化により、部活動の廃止が進んでいた。地域での大人のスポーツに関しては、小さな地域でのテニス同好会、ママさんバレーボールクラブ程度の活動が行われていた。</p>

【2. クラブの一般的特徴】

(3) 過去3～5年ぐらいの会員数の推移（学校区別）																									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">・2000年</td> <td style="width: 25%;">区・ 名/</td> <td style="width: 25%;">区・ 名/</td> <td style="width: 25%;">区・ 名/合計</td> <td style="width: 20%;">区・ 名</td> </tr> <tr> <td>・2001年 第7中学校</td> <td>区・ 200名/</td> <td>区・ 名/</td> <td>区・ 名/合計</td> <td>区・ 200 名</td> </tr> <tr> <td>・2002年 第7中学校</td> <td>区・ 500名/</td> <td>区・ 名/</td> <td>区・ 名/合計</td> <td>区・ 500 名</td> </tr> <tr> <td>・2003年 第7中学校</td> <td>区・ 700名/</td> <td>区・ 名/</td> <td>区・ 名/合計</td> <td>区・ 700 名</td> </tr> <tr> <td>・2004年 第7中学校</td> <td>区・ 650名/</td> <td>区・ 名/</td> <td>区・ 名/合計</td> <td>区・ 650 名</td> </tr> </table>	・2000年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	・2001年 第7中学校	区・ 200名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 200 名	・2002年 第7中学校	区・ 500名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 500 名	・2003年 第7中学校	区・ 700名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 700 名	・2004年 第7中学校	区・ 650名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 650 名
・2000年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名																					
・2001年 第7中学校	区・ 200名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 200 名																					
・2002年 第7中学校	区・ 500名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 500 名																					
・2003年 第7中学校	区・ 700名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 700 名																					
・2004年 第7中学校	区・ 650名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 650 名																					
(4) 活動種目の内容と数																									
グラウンドゴルフ・健康体操エアロビ・NBS式トレーニング&卓球・バドミントン・剣道・女子サッカー・少年少女バレーボール・卓球・健康体操・ヨガ・硬式テニス・キンボール・ソフトバレーボール・一般バレーボール 計 14 種目																									
(5) 活動圏域（校区等の特徴）																									
東京湾を埋め立てて創られた平坦な地域で、秋津・香澄・谷津南各町会、各小中学校共20年程度の歴史しかない新しい地域である。住民は核家族の若い年齢層がほとんどを占め、千葉都民と呼ばれるサラリーマンが中心になっている。地域内にはラムサール条約の登録湿地に指定された谷津干潟がある。																									

(6) 定期的な活動内容
(4) であげた14種目を隔週1回～週3回の回数にて定期的な活動を続ける 毎月1回の運営委員会 毎月1回の三役会 2月に1回の広報会議
(7) イベント等の不定的な活動の特徴
香澄夏祭りに参加 毎年8月に行われる香澄夏祭りにキックターゲットにて参加 秋津祭りに参加 毎年10月に行われる秋津祭りにキックターゲットにて参加 毎年2～3回の指導者対象の講習会を開催 NBSスポーツまつり 毎年3月最終日曜日に地域住民対象に「NBSスポーツまつり」を実施。キックターゲット・ストラックアウト・パーフェクトサーブ(テニスバージョン・バレーボールバージョン)等ターゲット種目に無料で挑戦してもらい、パーフェクトを出した方に景品を授与。

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン(指導者)の人柄(さらりと特徴的なこと)
来る者拒まず、去る者追わずの自然体のかまえ。
(9) なぜ故に総合クラブをつくろうとしたのか
習志野市教育委員会の呼びかけに対し現会長が手を挙げ、行政に協力する意志があることを表明。その後設置委員会を組織し、その会議の席上にて設置委員の意志の統一をはかり、行政と地域住民が二人三脚で設立を目指した。
(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか
私自身がそうであったように、千葉都民と言われる私達サラリーマンは、潜在的なスポーツ欲求は持っているものの、休日は家でゴロンとしてテレビを見るか、月1度のゴルフがせいぜいのスポーツライフを送っていると思われる。私はあるきっかけが有り、地域のママさんバレーのコーチを始めると、スポーツライフとともに、地域でのコミュニケーションも俄然活発化した。数年前の私のようなサラリーマンにせめて週1度の運動・コミュニケーションを楽しんでもらえるような場を提供したかった。

【4. クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き
会長-----1名 副会長-----2名 運営委員会委員長-----1名 運営委員会副委員長-----1名 事務局長-----1名 種目責任者-----1名

(12) いつ、どこで

原則的に毎月第4土曜日 秋津サッカー場研修室又は新習志野公民館にて開催

(13) どんな人たちによって

会長1名・副会長2名・運営委員長1名・副委員長2名・会計2名・各専門部会部長5名・各種目責任者14名・地域内各小中学校の教頭先生4名

(14) どんな内容を決定しているのか

各種目からの要望事項（予算、予算の執行、場所・時間の変更事項、等）
各専門部会からの要望事項（地域祭典への応援要請、研修会への参加要請、等）
事務局からの要望事項（各種目参加人員の把握のお願い、各会員への連絡事項、等）
三役からの要望事項（NPO法人化の検討依頼、「子どもの居場所づくり」事業への参加検討、等）

(15) 意志決定をスムーズにするための工夫

要望事項が有る場合、運営委員会10日前までに各種目・各専門部会より事務所に議題を提出してもらい、三役にて検討。三役段階で解決できる問題は運営委員会には持ち込まずに、提出をした種目・専門部に回答をしてしまう。

【5. クラブの組織体制と財政規模】

(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数

組織に関しては、前年の実績等を見ながら毎年少しづつ手直しを加えております。まだまだ絶対的にこの組織が良いとは思っておりませんので、毎年変わる可能性があります。

委員会・・・26名	地域活動推進部・・・6名	広報部・・・6名	運営 研修
部・・・6名	NPO法人設立推進部・・・6名	定期活動教室運営部・・・6名	

(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと

各小中学校のPTA、地域の町会、各町会まちづくり会議、等と連携を保てる方々に参加してもらっている。

(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと（特徴点）

運営委員会・各専門部会の人選をするにあたり、実際に活動に参加している会員の声を聞くことができるように、各種目から委員を出して貰っている。

(19) 会費及び財政規模とその支出内容（16年度予算）

ア) 自主財源の獲得状況（会費や寄付金を含む）

平成16年度に関しては、会費収入のみになっている。（但し、【子どもの居場所】の申請が認められれば日体協を通じて、文部科学省からの助成金が出ます）

イ) 財政規模とその主な支出内容

財政規模・・・¥2,500,000

定期活動関係・・・20%

広報関係・・・10%

事務消耗品・・・15%

事務局賃金・・・30% 等

ウ) 委託事業(行政等)の有無と今後の期待（指定管理者制度導入を見据えて）

16年10月に千葉県に対しNPO法人の申請を致します。法人格を取得できれば行政（習志野市）からの委託事業に関して行政も協力してくれる意志を表してくれているので、何らかの事業委託をいただくと考えております。

指定管理者制度に関しましては、習志野市の現在のスポ・ツ施設管理は「習志野市スポ・ツ振興協会」が行っており、振興協会を民間企業にするのかとの関わりがありますが、習志野市の3総合型で連絡協議会を組織し、行政に対し交渉していきたいと考えております。

【6. クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方

クラブの目的と理念：いつでも・誰でも・どこでも・いつまでもスポ・ツを楽しむ事が出来るように、安い会費で会員がスポ・ツの場を確保できるようにし続けること。

スポ・ツ活動を行いながら地域でのコミュニケ・ションの場を創り、年代を超えたコミュニケ・ション・居住地区以外の方々とのコミュニケ・ションを楽しむことが出来るようなクラブ作り。

(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ

行政の協力もあり、かなりの認知はされていると思うものの、現時点で地域の既存のクラブ・既存のスポ・ツ少年団においては、活動場所も人数も十分に確保されており、当クラブに関しての認知はまだまだ低いものと思われる。しかし、既存のクラブ・スポ・ツ少年団に参加していない方々からは「気軽にスポ・ツを楽しめる場」として重宝がられている。今後既存のクラブ・スポ・ツ少年団等が少子化の波に襲われた時には、当クラブが受け皿になれるよう準備をしておかなくてはならないと考える。

(22) 当該クラブの将来展望（夢のようなもの）

現在の事務所ではなく、サロンのあるクラブハウスを建設し、会員がいつでも気軽に（スポ・ツの場ではない場所で）コミュニケ・ションを楽しめるクラブにしたい。

又、将来習志野市の海浜地区のスポ・ツに関して、当クラブにおいてスポ・ツ団体を全て把握し、全てのスポ・ツの情報・指導者派遣等の発信基地になれると良いとも思っております。

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無 有る場合はその概要（住所や所有権など）

クラブハウス・・・無し

事務所・・・・・・・・有り

住所：習志野市秋津3-7-5 秋津野球場内

所有：習志野市

その他：現在使用料は無料。電話代のみ当クラブにて負担。その他光熱費等は市の負担。

(24) 練習・活動拠点 当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)

第7中学校・秋津小学校・香澄小学校・谷津南小学校の校庭と体育館。

秋津多目的広場（ナイト-設備付）。秋津サッカー-場。秋津テニスコ-ト（ナイト-設備付）。秋津野球場。茜浜サッカー-場。香澄ふれあい公園。等5平方キロの中に、かなりのスポ-ツ施設が充実している。所有に関しては全て習志野市。運営主体は、学校以外は習志野市スポ-ツ振興協会が行っている。

(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）

現状では、14種目のスポ-ツ活動において場の不都合を感じる事はないが、運営主体の習志野市スポ-ツ振興協会と習志野市教育委員会生涯スポ-ツ課との連携があまりうまくいっていないように、教育委員会から言われる事と、振興協会から言われる事のギャップが多少あり、事務局での場の確保に関して不都合が出てもおかしくない状況である。

(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数

13施設

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）

小学校3校・中学校1校の教頭先生に当クラブの運営委員になってもらっており、各学校での活動に対しての理解・協力をして頂いている。又、全校生徒に対するパンフレット配布等も全面的に協力して頂いている。

(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）

習志野市スポ-ツ振興協会より、指導者の派遣をお願いしている。

(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因

当クラブ会員だけが恩恵を受け、楽しくスポ-ツをすれば良いという考えではなく、基本的に地域の方々と共存していく体制での運営が必要。具体的には、当クラブで購入したスポ-ツ備品を、学校等に置かせてもらうかわりに、各学校・地域のスポ-ツ団体の方々にも当クラブの備品を使用しても良いとの関係を持っている。

(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）

何をしてもそうであるように、自分の利益のみを考えた交渉・話し合いをすると失敗は目に見えていると思います。

(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的メリット

双方が得をすること。

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例

習志野市の広報誌（市内全域全戸配布）に記事を掲載させて頂いたり、学区内全戸にパンフレットのポスティングを実施したりと、色々な努力はしましたが、最終的に人と人の繋がりでの会員獲得が一番確実だと思われる。その為には参加して楽しいクラブ創りをしていく努力が必要不可欠である。

(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）

出来ない事を出来ると言ったり、まるで予定がないのに予定している等の嘘を言って、会員・指導者を集める事。

(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容

現在助成金による事業等は実行してないが、来年5周年を迎えるにあたり、有名選手を呼んでスポーツ教室の実行を検討している。

(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）

人に対してのお金を使えるようになった。会費収入だけでは、指導者・ボランティアへの謝金を捻出することは難しいが、助成金にて人に対する助成が可能になった。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い

創設期の組織は、設立準備委員会に参加していた、各地域で活躍をなさっていた方々をそのまま運営委員に残したが、実際の活動をしていない方々ではクラブ内の諸問題を真剣に話し合う事ができずに温度差が発生してしまった。平成15年度より、運営委員構成メンバーに各種目の種目責任者をお願いし、各専門部会にも各種目から数名づつ委員を出してもらい、組織そのものが活性化した。

(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由

参加して楽しいクラブにする努力（会員の生の声を種目責任者に聞いてもらい、その声を運営委員会に反映してもらう事）が必要不可欠だと思われる。種目適には、大人と子供が両方楽しめる、家族で参加できる種目に重点をおいて、なおかつ年代別の種目を用意する事だと思う。

(38) 成功したと思われる決定的な要因

受益者負担の本当の意味（会費を払えば受益者負担をしているとの誤った考えを、会費を払うのはあたりまえ、運営に関しても会員相互で運営していかなくてはならず、誰も手助けしてくれないとの意識を持ってもらう事）を認識させ、運営・イベント等に会員の参加を広く募集し、多くの人々を参加させた事。

(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか

イベント開催時に、現役・OBを問わず、有名スポ - ツ選手を派遣してもらえるような態勢を構築して頂けると会員に対するサ - ビスの向上を図れると思う。

(40) 現在、悩んでいること、困っていること

「地域子ども教室推進事業」の報告書を見ていると、完璧な報告が出来るか一抹の不安を感じる。

ご協力、ありがとうございました。